人が集まる園舎づくり

社会福祉法人萌葱の郷　子育て総合支援センター こざいこども園 園長 五十嵐猛

1、はじめに

私たちは、平成３年から発達障がいに関連する様々な支援に関わる中、幼少期に安心感や信頼関係に基づく相互作用（やりとり）を通して「周囲の期待に応える意欲」を育むことが障がいの有無に関わらず社会で生きていく上で最も大切であることを学びました。こうした経験を啓発普及するために、平成１７年に大分県の委託で発達障がい者支援センターを開所し、翌年から大分県内の関係諸機関と協働して発達障がい者支援専門員養成研修を運営することで支援体制の構築をすすめています。

また、平成２４年に豊後大野市から民間移管を受けた保育所を子育てについて総合的に支援する体制に整え、関係諸機関と連携しながら生活環境や器質的な特性から発達に課題を有するこどもへの適切な配慮や支援を行う保育を発展させた「保育コーディネーター」の養成を大分県保育連合会の下で養成し続けている他、こどもの発達を視覚的にとらえやすくする「イコールレーダー」を開発して普及する等、こども一人ひとりをかけがえのない存在として尊重できる保育実践の発信を行うことで「大分県子育て満足度日本一」に向けた貢献を果たしてもまいりました。

2、本研究の経緯

発達障がいに限らず、人は幼少期に受ける周囲からの関わりが発達に大きく影響します。そのため、障がいの有無に関わらず、子育てを総合的に支援する体制づくりとして幼稚園と保育園を兼ね備えた幼保連携型認定こども園の隣に地域子育て支援センターと児童発達支援センターを設置し、「豊後大野子育て総合支援センター」と称して地域の子育て支援全般に向けた支援を展開しています。

また、本総合支援センターを軸にしながら地域の保育所等の子育て機関とも連携して、地域に暮らしている乳幼児と家族に対して子ども一人ひとりの生活環境や器質的な特性に応じた子育て支援も進めてまいりました。

そうした中、フィールドとなる園舎設計においても利用児童や保護者の安心感のみならず、職員の働きやすさややりがいにもつながることを感じるようになり、あらためて研究をすすめてみたいと考えていたところ、大分市から、平成３０年度待機児童解消に向けた大分市保育所設置運営事業の募集案内が届きました。またと無いチャンスを活かしたいと考えて申請を行い、無事に採択されました。

3、本研究のフィールド

こどもの夢　こざいこども園　所在地　大分市大字屋山 1658-6　電話番号　097-528-9900
開所時間　7:00～18:00　教育時間　9：00～13：00　延長保育　18：00～19:00
定員　70 名　1 号（3 歳 3 名 4 歳 3 名 5 歳 4 名）、2 号（ 3 歳 11 名 4 歳 11 名 5 歳 11 名）、3 号(0 歳 9 名 1 歳 9 名 2 歳 9 名)

●教育保育理念：「自他を知り 違いを受入れ　支え合う」

子ども一人ひとりをかけがえのない存在として尊重し、保護者や地域社会とともに「お互いを尊重し合える」人権意識を育む。

●教育保育方針：①家庭や関係機関と協働し、安心感を育てます。　②のびのびと成長・発達する心を育てます。　③身辺の自立の基礎となる生活習慣を育てます。　④よく食べ、よく遊び、しなやかで丈夫な身体を育てます。　⑤お友だちの気持ちや集団生活のルールを考える力を育てます。　⑥自分を大切にし、友だちの個性が理解できる知識を育てます。⑦聴く力、考える力、ゆたかに自己表現できる才能を育てます。

4、研究課題と経過

こざいこども園は障がいの有無に関わらず、ユニヴァーサルな視点からこども一人一人の発達を最大限保障することに向けて、地域の子育て機関や保護者に向けて通常の保育以外にも以下の支援についても進めたいと考えています。

① 児童の発達への影響について

② 保護者の安心への影響について

③ 保育士の働きやすさへの影響について

④ 地域との交流への影響について

⑤ 災害時の避難への影響について

平成 28 年 6 月	平成２８年度　大分市認可保育所等の新規事業者募集に関する説明会
平成 28 年 6-7 月	新規保育所設置用地の探索
平成 28 年 7 月	大分市保育所設置・運営事業（施設整備補助金対象事業）申請
平成 28 年 10 月	面接審査
平成 28 年 11 月	大分市保育所設置・運営事業（施設整備補助金事業）選定（内定）
平成 29 年 1 月～	園舎設計について、現場保育士からの聞き取り
平成 29 年 9 月	こざい保育園工事着工
平成 30 年 3 月	こざい保育園工事完了
平成 30 年 4 月～3 月	こざい保育園開所　見学者受け入れ 厚生労働省　障害福祉課課長補佐　市川聡、障害児支援専門官　鈴木久也 大分県議員　衛藤博昭、森誠一 大分市坂ノ市地区、小佐井校区民生児童委員協議会 大分県教育委員会、大分県ホームスタート 大分県私立保育園協議会保育・調理部会 大分県保育士会、竹田市保育協議会、由布市保育協議会、大分県こども未来課、 大分県障害福祉課、施設関係者、保護者他　合計約２００名
平成 31 年 4 月	幼保連携型認定こども園「こざいこども園」へ移行

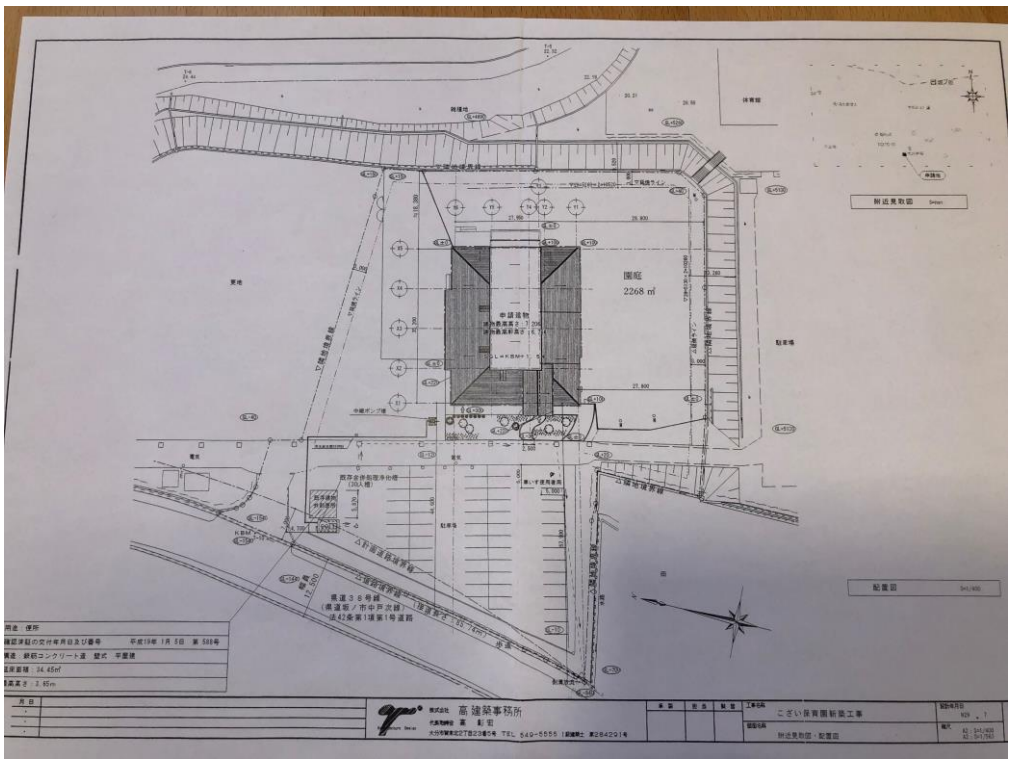
5、研究内容

① 土地選び

こざい保育園は、約 4000 坪の広さの土地に 300 坪程度の平屋の園舎を構えています。保育所は行事の時を考慮した駐車場の確保、そして、体を精一杯動かしながら遊ぶことができる環境を用意することが理想であり、それに見合う土地を探すことは容易ではありません。そうした条件をクリアした物件の中から本地を選択した理由は、一般道沿いにあるにも関わらず、敷地が守られた場所にあることでした。また、本地は道路よりも高地にあることから、津波や洪水などの影響を受けにくく、山を切り開いて開拓されていることから、地盤がしっかりとしていることも調査の結果で分かりました。更には、近隣に小学校や県立高校があるといった文教地区でもあり、学校への接続や、人権教育に貢献しやすい土地という、保育所を建てるには絶好のロケーションでもあるものと考えました。

本敷地は TOTO の社宅が建てられていましたが、リーマンショックによって事業規模を縮小したため、１０年ほど空き地のままになっており、雨水路の管理などが地域の課題になっていました。そのため、屋山区自治会からも保育所建設に向けてとても好意的な回答をいただくこともできました。

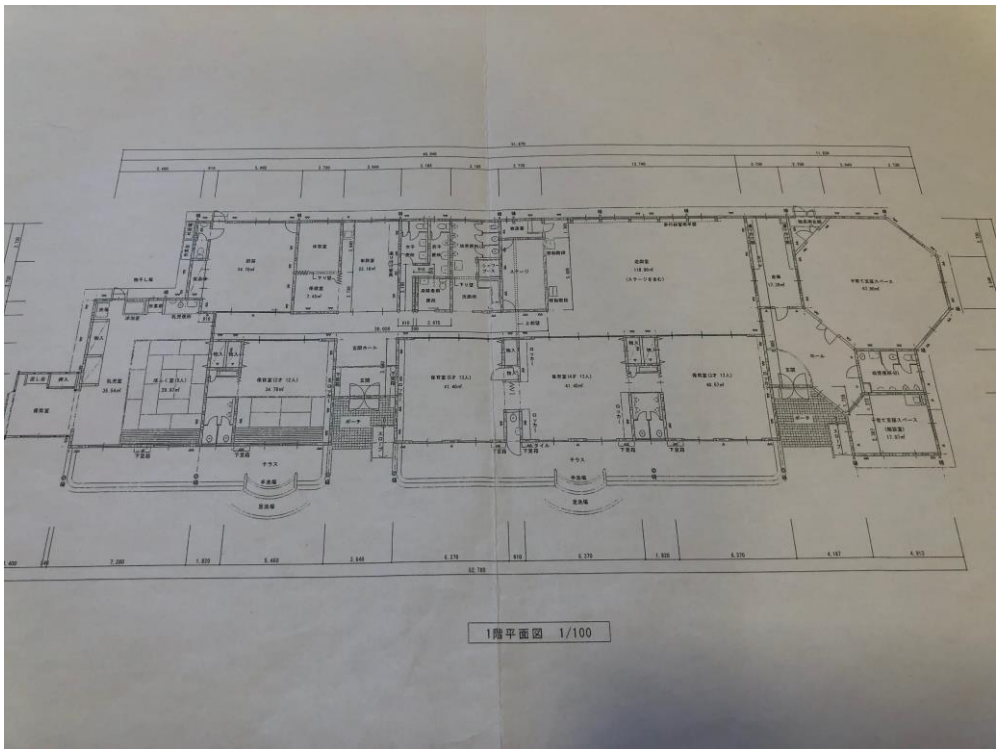
北側から見た園舎です。手前に残された土地にも子育て支援施設を建設する予定です。



園庭や駐車場を含めた全体の図です。

② 園舎内

保育士から意見を集めるたたき台として、いぬかいこども園の図面を活用しました。

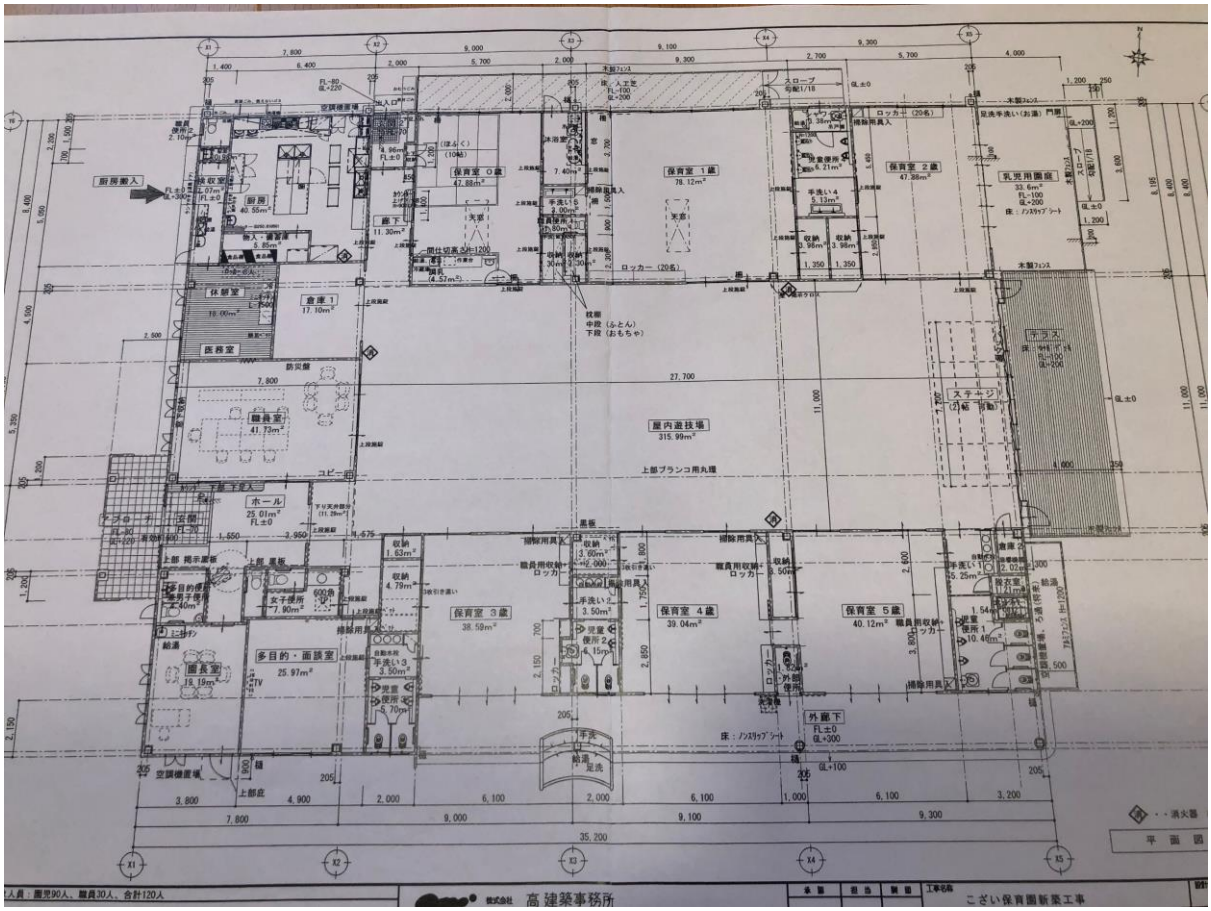


縦長に設計された、いぬかいこども園の平面図です。

いぬかいこども園の園舎はホールを伴う広い園舎であり、１５年前以上前に建築されていた建物であるにも関わらず、園庭に続くテラスが設置されていることや、各クラスの間に通路とトイレを設けることで行き来できるように工夫されている点等、保育士からの評価が高い部分が数多くあり、それらについては新園舎にも引き継いでいくようにしました。

しかし、今日のように未満児の利用が増えることが想定されていなかったことから「未満児の部屋が狭い」、「未満児の部屋がホールに遠くて活用しにくい」といった意見の他、「保育室から職員トイレが遠い」、「職員室から離れている保育室がある」、「職員室から来園者を把握しにくい」等という課題点もあげられており、他にも、ホールが２か所とも北側にあるため、薄暗いイメージが残りやすい、とか、園庭が１面しかないために以上児と未満児が混合で遊ぶ時に制限が増えてしまう、といった保育し難い点もあげられていました。

こうした貴重な意見を取り入れるために、新しい園舎を設計する際には保育士の意見を建築士に届ける機会を定期的につくり、「児童の動線」や「保育士の動線」、「部屋の明かり」などに配慮した園舎づくりを目指していくようにしました。



こざい保育園（こども園）の平面図です

まず、玄関脇には職員室と園長室を設けることで、来客時の対応をすみ分けるようにしています。厨房側にも別の入口を設けており、日常の集配はそちらで受けるようにしました。玄関右手には広報用に学校の黒板のような掲示板を設けることで画びょうを使わないで済みます。大きな内扉には、背の高さに応じて中からも覗けるような丸窓を設けて、全体を見えにくくし、外部の刺激を抑えながらも丸窓から外を確認することができるようにしました。

正面が入り口の扉です。

正面から向かって左手が職員室です。

正面から向かって右手に多目的トイレがあり、その奥に園長室があります。

扉の丸窓から覗いてみた空間と、扉を開けた時に広がる風景です。

ホールは閉塞感がないように天井を高くしており、行事だけでなく、日常の教育保育でも療育用の大型ブランコやトランポリン等を使えるようにしました。ホールの東側からは園庭にいつでも出られるように、全面を開放できる窓を設置して戸外との接続部にウッドデッキを設けています。

手前が丸太ブランコで、奥がエアートランポリンです。

倉庫を予定していた空間の一部を使ってカームダウンルームも設けました。これも療育現場からのヒントであり、療育で活用しているものを保育園でも活用して効果を検証してみようという、ユニヴァーサルな考えのもとで設置しています。

左がカームダウンルームで、右はホールを行事に使う時のレイアウトです。

職員同士がコミュニケーション取りやすくなるように、すべての保育室が見渡せる位置に職員室を配置しました。職員室が中央にあることで、全職員が情報を把握しやすくなるとともに、部屋を円形に並べることで、災害時に全ての部屋からホールや外に避難しやすくなることを想定しています。

左は案内図です。職員室にはホールと全保育室が見渡せる来客席を設けています。

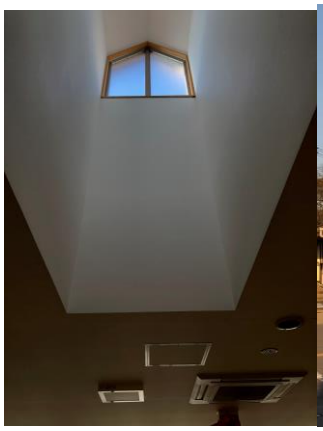
献立内容や食育計画など、保育現場と調理室との協働を密に行うために検収室からは、調理室だけでなく、職員室にも抜けられるようにしました。調理室には、業務の合理化に向けてスチームコンベクションやブラストチラーを備えました。

左が検収室で、右がキッチンの内部です。

０歳児の部屋前に配置することで離乳食等を配膳しやすいようにカウンター窓を設けています。配膳口の幅を広くとるために、窓の開閉を上下タイプにしました。

左側が調理室の出入口、右側が０歳児の部屋です。

３歳未満児の保育室は北側になるため、天井にも明り取り用の窓を設けました。明り取り窓は、外観のアクセントにもなっています。



左が明り取り窓です。

０−１歳児の部屋はお互いが行き来しやすいように、外のテラスをつなげました。テラスに出る窓には、片側だけでも開閉できるようなオーダーキーをつけています。

左が０－１歳のテラスです。右がオーダーキーの部分拡大です。

沐浴室は０−１歳の部屋全体を見渡せる高さに窓を設けました。０歳児の部屋からだけでなく、１歳児の部屋からも沐浴室に入って使うことができます。扉はすべて子どもの背の高さで指詰め防止を加工しており、ロックする高さも大人向けに調整しています。

向かって左が沐浴室で、右側が１歳児の部屋につながる通路です。

調乳室は、入り口横にカウンター式で設置しており、園児の様子を見守りながら作業できます。０歳児室は転倒時に怪我のないように、畳以外の床はクッション性のあるシートにしており、床に座って過ごす機会が多いことも想定して床暖房を備えています。

左が調乳室で、右は床暖房の子トローラーです。

自己主張が強くなる１歳児はぶつかり合うことが増えるため、一番広い部屋を用意し、状況に合わせて生活空間を分けられるように移動式のパーテーションを置いています。部屋一面に床暖房を備えています。

１歳児の部屋です。

２歳児の保育室は東側に広いテラスを設けることで、小運動場に行き来しやすくしました。テラスには、温水が出る足洗い場も設けています。小運動場からは３歳以上児が主に活動している南側の大運動場に行き来することもできます。

上段が２歳児のテラスで、下段がホール先のデッキと小運動場です。

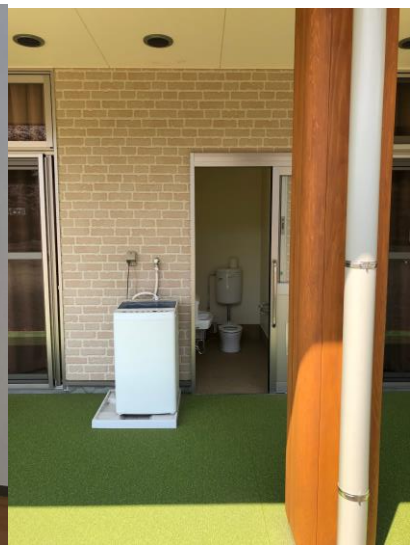
３歳以上児の保育室は、いぬかいこども園と同じように南側の園庭に出入りがしやすいようにテラスを設置しました。天井には、ハンモックやブランコ等が下げられる金具を取り付けています。

テラスの吊り輪にロープを下げて遊んでいます。

トイレの配置も、生活の上でとても重要であります。園児用のトイレは、保育者が把握や介助をしやすいように、各保育室の間に設置しました。各保育室に通路を設けた理由は、異年齢児との交流を深めることを狙いにしており、いぬかいこども園の環境を踏襲しています。通路の窓はアーチ状で柔らかい印象が得られるように演出しました。

左が１－２歳用のトイレで、右が３－４歳用のトイレです。

行事等の際に小学生の兄弟児等が使うことを想定して、５歳児用トイレをホールからもアクセスできるようにしています。このトイレには夏場やお泊り保育等で活用することを想定したシャワー室も設けました。また、プールや泥んこ遊び時を想定した外遊び用トイレを３歳以上児のテラスに設けています。



左が５歳児用のトイレで、右が外用のトイレです。

職員トイレは、男性トイレを多目的トイレとして誰もが活用できるように玄関に設置し、他に女子トイレを２か所設けることにしました。その内の１か所は外部の人でも活用しやすいように、来客や一時保育等に活用するフリースペース（多目的ルーム）脇に設置し、もう１か所は現場の保育士からの要望で０－１歳から少しでも目を離さずに済むように０歳児と１歳児の保育室廊下に設けました。

左がフリースペース脇のトイレで、右が０-１歳児の通路にある職員用トイレです。

ホールへの反響を考えて吸音ボードをつけています。また、入園式や卒園式、発表会などをふまえて、壁一面は白に統一しました。クラス名も華やかなイメージを大切にし、５歳児から順に華組、虹組、光組、空組、星組、月組と命名し、室名のシンボルをデザイナーに依頼して作成しました。

西側の壁と天井に吸音ボードを敷き詰めました。左は３歳児の室名です。

各部屋には、こどものロッカーに加えて保育士用のロッカーも高い位置に備えました。職員机は、人数によってレイアウトが変えられるような移動式の物にしています。

左の棚の上が職員用ロッカーで、正面が移動式のデスクとイスです。

③ 園舎外

外観については、幼児の創造性が広がるように、人形玩具の箱家をイメージしながら設計して壁をレンガ調にしました。玄関前に花壇の小道を造ることで、四季の変化を意識してもらいやすくしています。

西側が園舎入り口になっています。

壁も童話の世界を考えて温かみのあるレンガ調にしました。全体の色も気持ちが穏やかになる柔らかい色合いにしています。本来であれば、園舎全体を丸く造りたいとも考えたのですが、コストや納期上の関係から、箱型の中に丸い空間を取り入れるように工夫しました。

本園は、坂ノ市の中でも海抜の高い土地を選んでいるため、津波や浸水による影響がありません。また、建物の構造も熊本地震で被災した施設を支援した経験から鉄骨造で設計するとともに、以前、大雪のために犬飼町一帯が停電になって不便さを感じたことがあった経験から、太陽光を設置することにしました。災害時に子育て避難所として活用することも想定しています。外観を損なわないように、南側の屋根に太陽光を集中して設置するようにしました。

南の園舎屋根に太陽光を載せています。

　敷地が広いため、大きな遊具を置く以前に、古墳のような大きな築山をつくって三輪車でも通れる土管トンネルを設置しました。築山の傾斜は四方の角度を変えており、発達段階に応じて登ったり降りたりしながら楽しめるようにしています。

大人気の築山です。

④ 地域環境

小佐井地区には、TOTO や旭化成工場があり、年々子育て世帯の移住が増えて待機者も増加している状況です。本建設地は、小佐井小学校や大分東高校が近いことから、小学校への接続や地域との交流も行いやすい場所であるとともに、土地・建物に余裕のある設計が見込めるため、保護者参観や地域交流時の駐車スペースを十分に確保できますし、今後も子育て世帯の増加が見込まれている坂ノ市や小佐井校区の待機児童数に応じて利用定員を増やしていくことも可能です

また、地域の小中学校や高校、人権擁護委員、民生委員等と連携しながら、保育を通した人権学習の機会をつくるとともに、東日本大震災や熊本地震などの経験から、津波や地震等の緊急時における避難対策においても、地域の関係諸機関と連携をすすめていきたいと考えています。

築山より高い丘からは、こざいこども園や TOTO の工場を見渡すことができます。

6.効果

① 児童の発達への影響について

玄関入り口が広いため、玄関から入ることに抵抗を持ちにくいようです。ホールへの扉を開けると、見学者も含めた全ての児童が吸い込まれるように入り、すぐに馴染めていました。この扉を開けた時、大人でもホールの広さに歓声があがることが少なくありません。ホール内が明るくて解放感があることと、自分と他の人との居場所に見通しが持ちやすいこと等がこどもの安心感につながるようです。カームダウンルームは、ハイハイを始めた０歳も含めて全ての子どもが利用しています。休憩場所や隠れ家、使い方は子どもの発達や状況に応じて様々で、情緒の安定のみならず、創造性も育まれています。広いホールとブランコは、雨期や台風、猛暑や厳寒のために園庭で遊べない日も大型遊具を使って体を動かして遊べるため、ストレスなく過ごせていました。行事の練習などにも集合しやすく、異年齢児の交流が深まっています。時々、クラスの部屋から出たがる児童は居ますが、ホールから先には出たがらず、ホールやカームダウンルームでくつろいでから部屋に戻ることができています。

０歳児の部屋には、危険防止のため、テラスに出る窓を片側だけを開閉できるようにオーダーキーをつけたことで、安心して部屋に外の風を入れることができています。児童が部屋の通路を通して隣のクラスに行き来できるため、新年度にクラスを移ることに抵抗がありませんでした。

１歳児の部屋を広くしたことでパーテーション等を活用して食事や遊び、睡眠する空間を分けることができ、部屋でこども同士の衝突もおこりにくくなっています。

２歳児になると活動範囲も広がるため、小運動場に出る前に広いテラスでこどもの把握をしやすく、テラスに足洗い場を設けていますので、泥んこになって遊んだ後も清潔を保つことができました。

３歳児の部屋は、４～５歳児までの部屋のみならず、多目的室にも通じていることから、要配慮が必要な時などでも有効に活用することができています。テラスから外にも出やすく、足洗い場からも近いので、清潔を保つことができます。

４歳児の部屋は３歳児と５歳児の間にあり、どちらにも行き来がしやすいことから、交流をすすめやすく、一緒にお昼寝する時などにも抵抗を持ちにくくなっています。

５歳児用のトイレはホールにもつながっているため、行事などの時に外部のこどもも活用することができます。３歳以上児のテラスには外トイレがあるため、プールの時や外遊びで汚れたままでも使うことができます。

園庭については、小運動場と大運動場とに分かれて使用することもできるため、未満児と以上児のどちらも遊びを展開させやすいとともに、行き来しながらお互いに影響し合う

こともできています。

② 保育士の働きやすさへの影響について

保育士に一番評価が高い点は、どの部屋からでも児童を把握しやすいことです。また、各クラスに指詰めを防止したり、ホワイドボードを設置したりしているため、安全面への配慮がされている点も高く評価されています。

他にも、ホールが広くて活用しやすく、運動場を分けて使うこともできるので、遊びを展開させやすく、把握もしやすいという意見も多くありました。

園舎の色や形が柔らかな印象であるとともに、園庭も含めて広くて開放的であるためか、「職員がいつも明るくて、やさしい」と多くの保護者や来客者に褒められます。保育士不足の時代に反して就職を希望する方が多く、退職者も居なく、こざいこども園で働くことを希望して待機している保育士もいます。

③ 保護者の安心への影響について

見学に来られた方の中には、園舎や園庭が広いことに驚いて直ぐに転園希望を出された方もいました。加えて、駐車場が広いことに評価をいただくことも多くありました。

ホールの活用については、行事の時だけでなく、保護者参観でも「こどもと一緒に初めて大きなブランコに乗れて楽しかった」「エアートランポリンにはビックリした」などの感想をいただきました。家族と思い出に残る経験をいろいろと提供することができています。

「先生がたくさんいて良いな」と言われることも少なくありません。保育士の働きやすさと保護者の安心とは密接に関係していることをあらためて感じさせられます。

園の方針や園舎、先生方にはとても感謝しているのだけれども、広い園庭に対して遊具が少ないことに不満が残るというご意見をいただくこともありました。認定こども園に移行することを見越しながら、順次、増やしていき、将来的には園庭の周囲ののり面をつかった遊具も設置していきたいと考えています。

④ 地域との交流への影響について

地域の民生委員の方々が歓迎してくださり、見学などを通して意見交換を行うことができました。広大な土地の環境整備について相談したところ、主任児童委員の方が協力してくれることになり、芋ほりなど、地域の方々と交流させていただく機会も広がりました。

小佐井小学校にも歩いて行ける距離なので、散歩を兼ねて学校見学に行くことができています。

玄関前の花壇は、隣接している県立大分東高等学校の農園芸科実習の一環として、四季

を通じて管理してくれることになりました。また、学校側の計らいにより、保育体験学習として学生が実習をする機会を作ってくださり、園児との交流の機会も広がっています。学生の中には、保育士を目指された方もいました。大人に守られて生活している幼児との交流を通しながら、「命」や「人権」について、自分達の幼少期や大人との関係等を見直す機会になることが期待されます。

⑤ 災害時の避難誘導への影響について

本設計では、全員がホールに集まりやすく、外にも全方向に避難することができます。また、いち早く避難が求められる際には、各部屋から拡散するような誘導も行うことができるため、不審者も含めていろいろな状況に対応することができます。

地区の避難場所である県立東高等学校の麓にあるため、園児と一緒に高校の避難訓練にも参加させていただきました。

同じ地区の小学校に不審者が現れた情報が入り、保護者から心配の声があがりましたので、防犯カメラを設置しました。広大な土地であるため、合計 6 台で全方向を監視しています。

7. まとめ

本研究を通して、「環境」と「相乗効果」という言葉を強く意識しました。良い「環境」が人を支え、その中で人が人を支える、そうした「環境」には、さらに人が集まり、お互いが支え合うことで働きやすさ、生きやすさにもつながり、その余裕がまた人への支えにもつながっていく。人は誰にも理想があり、人を支援する仕事を選んだ人には、それだけの理想がある。その理想を理解し、受け入れてくれる仲間がいるからこそ、自分を肯定的に受け止めながら働くことができる。そして、やがて仲間たちはお互いを支え合うだけでなく、高め合ってもいくようになる、誰も怠けようとせず、理想に向かってお互いがお互いの質を向上させていく。こうした意欲を生み出していく「環境」をマネジメントすることこそが、経営者に一番期待されていることであり、同じ理想に向かう現場の困りに耳を傾け、それを我がことのように受け止めて改善することに手を抜いてはならないことをあらためて認識しました。私の恩師である日本の自閉症支援の第一人者であり、日本保育協会の理事長等を務めていた石井哲夫先生も「福祉施設処遇は、人間の善意と技術の集積とによる」と仰っていました。現場には机上にない、理想を宿した職人によるたくさんのアイデアが溢れています。これからも、現場に向き合いながら、実践に活かせる研究をすすめることで、法人理念である共生社会の実現や子育て満足度に貢献し続けていきたいと思います。